

学 界 消 息

1. 寺田氏が CMM 作業委員会議長に

本学会会員、気象庁海洋気象部長寺田一彦氏は、第2回海上気象委員会(CMM)において設置された「国際漁業機関との関係に関する作業委員会」の議長に任命された。構成委員は、スピナブル(ノルウェー)、ワンデン(ドイツ)、吉田(ユネスコ代表)FAO代表1名

2. J. ビヤクネスに第4回 IMO 賞

本年5月に開かれたWMOの第11回執行委員会は、J.

ビヤクネス(ノルウェー)の国際象界に対するすぐれた功績に対して、第4回IMO賞を授与することに決定した。賞は、直径57mmの金メダル、賞状および1,200ドルである。

3. 大沢氏渡米

本学会会員、長崎海洋気象台予報課長、大沢網一郎氏は、メソ気象学を研究するため、6月22日から、1年間アメリカ合衆国へ出張された。

4. 新入会員 (234頁に続く)

理 事 会 便 り

第14回常任理事会の決議事項は次の通りです。

1. 日本学術会議第5期会員候補者の当学会からの推せんは同事務局にも連絡のうえ、当学会選挙管理委員会に委任することとし、2名の欠員(外国留学と病気のため)は竹内清秀氏にお願いすることとなつた。
2. 数値予報国際シンポジウムは当学会が主催し、気象庁と日本学術会議に後援を依頼することとなつた。
3. 前記組織委員会の構成については、梶山理事長、正

野理事、今井理事が当ることとなった。

4. 当学会の行事、消息、理事会だより等を天気に掲載、集誌会員にも別刷を配布することとなった。
5. 地学科の廃止問題については、検討のうえ8月の例会後に決論を出すこととなった。
6. 気象集誌に掲載希望の論文で16頁をこすものは編集理事が善処することとなった。

【書評】

坪井八十二著 霜害の予防法

B6版 117頁 定価 130円

地球出版株式会社 昭和34年5月15日発行

著者坪井八十二氏は、農林省農業技術研究所技官で、研究室長を勤め、農業気象に造詣の深い方である。

こんど出版された「霜害の予防法」は、農家向きに、凍霜害の予防法を解りやすく説明された本である。これはわずかに120頁足らずの本ではあるが、その内容はいままでの農家向けの普及書にみられない新鮮さをもっている。それはこの本に使われた資料が、氏の実験的な経験にもとづいたものであり、あるいはまた広く海外の資料をもとり入れた結果であると思う。

従来日本では、農学と農家とがややもすれば離れた存在になり、農学の農家への実際の普及がなおざりにされたうらみがあった。この本はその基盤は農業気象の厳密な研究に発しながら、農家への応用という実際面にも細心の注意が払われており、上述のようなギャップをよく埋めている。たとえば、霜を防ぐために火を燃やすには、実際には気温がどの位まで下った時がよいかという

ような問題なども、まことに詳しく解りやすく説明されている。この点従来の解説書にみるようなあいまいさがない。

気象関係でも霜の予報は重要なものの一つであるが、ややもすると農家の実情を知らずにだす場合も多かった。この本は最近の防霜法を知る上においても、また実際の農家がどんな点を問題にしているのかを知る上においても、気象技術者としてぜひ知っておかなければならない多くの要点を含んでいる。諸産業と結びついた解説予報のますます重要となる今日、第一線の予報技術者に広く読んでいただきたい本の一つであると信ずるものである。

ただ欲をいえば、天気予報と霜害の予防との面を、もう少し立ち入って書いていただきたいかった。この点多少のあき足らなさはあるが、この小冊子にそれを註文するのは無理であろう。
(荒井隆夫)